共鳴

声帯で発生した振動は咽頭腔、鼻腔、口腔といった「共鳴腔」で共鳴します。何人かの人が同じ音程で歌っていても、一人一人の声を聞き分けられるように、それぞれ声の音色には差があります。その人独特の共鳴があって、その共鳴は倍音の量によって決まります。

息と声の流れ、及び共鳴感覚

「身体全体を一つの楽器としてとらえ、全身に響かせる。」とよく言われますが、実際に共鳴する場所は部分的で、全身ではなく、「声」という音源の出ていく上の部分、

1. 口の中　　（口腔）
2. 鼻の中　　（鼻腔）
3. 声帯のある喉の周り（咽頭腔）

以上の三部分が共鳴腔と考えられています（図1）。

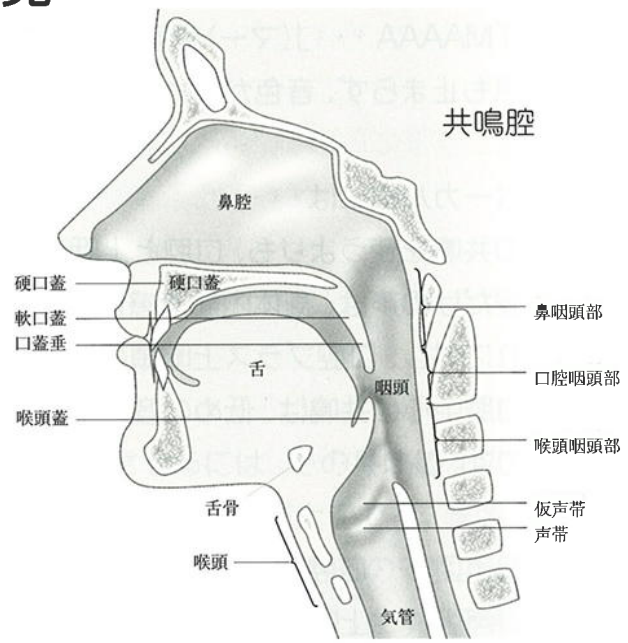

図1

まずは、声は息の流れに乗っていくので、上手な共鳴を得るために息の流れを調節できるようにすることです。息の流れは大きく分けて三つです。

1、口からのみの息の流れ
2、鼻からのみの息の流れ
3、口と鼻の両方からの息の流れ

1. 口からのみの息の流れ

口で呼吸をし、「HAAAA・・・」（ハァー）無声音の「H」から、有声母音の「A」を出します。鼻をつまんでも音色が変わらないことを確認しましょう。今度は手のひらで口を押さえてみます。声も息も止まることを確認しましょう。

※ 声は低めの方が感じがつかめます。